

第 1 5 章

財 政

第 15 章 財 政

1 大阪府の財政

平成 20 年度の普通会計決算額は、歳入 2 兆 7085 億円、歳出 2 兆 6856 億円と前年度に比べて、歳入 2.5%減、歳出 2.8%減となっている。

決算の収支状況を見ると、歳入から歳出を差し引いた歳入歳出差引額(形式収支)は、229 億円の黒字で、事業の繰越などにより翌年度に繰り越すべき財源 110 億円を差し引いた実質収支は 119 億円の黒字となった。また、20 年度の実質収支から 19 年度の実質収支を差し引いた単年度収支は 126 億円の黒字となった。

財政構造の弾力性を判断する指標とされる経常収支比率は 96.6%で、前年度に比べ 6.1 ポイント減少している。

歳入

歳入構造を見ると、地方公共団体が自主性を発揮して行政を進める上で重要な要素となる自主財源の割合は前年度に比べ 2.3 ポイント減の 75.3%となった。

歳入のうち最も大きなウエイトを占める府税収入の決算額は、1 兆 3567 億円で全歳入に占める割合は 47.3%となっている。

府債の決算額は 2788 億円で前年度に比べて 6.9%の増となった。これは、投機的経費の縮減に伴い発行抑制を行ったものの、府税収入の減少に対する減収補てん債の発行が増加したことなどによるものである。

歳出

歳出決算額を目的別にみると、最も大きなウエイトを占めているのは教育費(構成比 25.9%)で以下、商工費(同 15.2%)、土木費(同 11.1%の順となっている。

前年度と比較すると、総務費が伸びており、これを性質別にみると、人件費が 8656 億円(構成比 32.2%)で最も高く、次いで補助費等の 5903 億円(同 22.0%)、貸付金 4842 億円(同 18.0%)の順となっている。

2 市町村の財政

平成 20 年度の府内市町村普通会計決算額は、歳入 3 兆 4926 億円、歳出 3 兆 4617 億円と前年度に比べて、歳入は 0.2%減少、歳出も 0.7%減少している。

歳入の特徴を見ると、地方税については、0.5%減となっており、それ以外については、国庫支出金や地方交付税や地方特例交付金などが増となったものの、府支出金や地方譲与税などで減となっている。

決算の収支状況を見ると、形式収支では 309 億円の黒字であり、翌年度への繰越財源を差し引いた実質収支でも 104 億円の黒字であり、単年度収支では、54 億円の黒字となっている。

また、市町村ごの実質収支では、黒字団体は 40 団体(31 市 9 町村)、赤字団体は 3 団体(2 市 1 町)となっている。

歳入

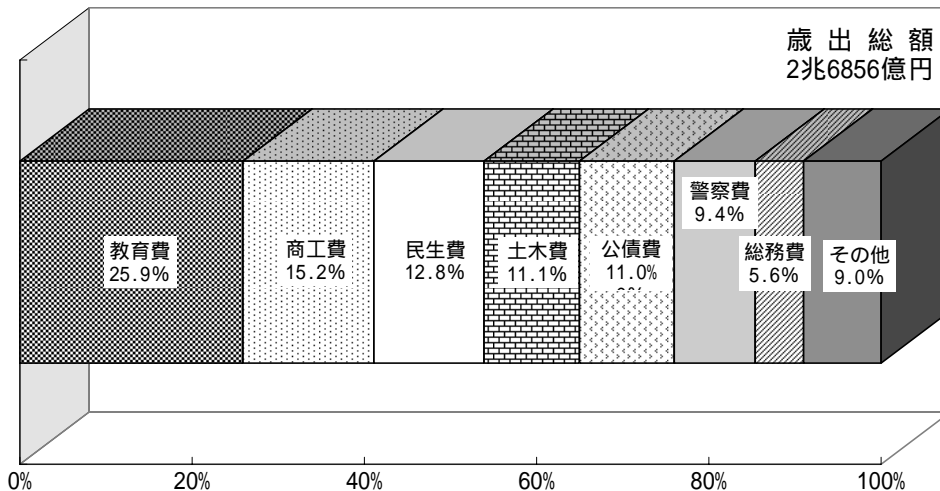
歳入を科目別にみると、地方税は、前年度に比べ 0.5%(75 億円)減であり、歳入総額に占める割合は、46.2%となった。

また、その他の歳入で主なものを科目別に見てみると、地方交付税は、前年度比 4.4%増、国庫支出金同 5.4%増、地方債同 0.5%減となっている。

歳出

歳出を目的別にみると、民生費 1 兆 2702 億円(構成比 36.7%)、土木費 5092 億円(同 14.7%)、公債費 4204 億円(同 12.1%)、総務費 3698 億円(同 10.7%)、教育費 3117 億円(同 9.0%)、衛生費 3027 億円(同 8.7%)の順となっている。これらを前年度と比べると、民生費 2.2%増、土木費 7.9%減、公債費 0.9%増、総務費 6.6%増、教育費 5.1%減、衛生費 1.9%減となっている。

普通会計歳出決算額の構成（平成20年度）



普通会計歳入決算額内訳（平成20年度）

